

第 18 回

八幡市地域公共交通会議 議事録

令和 8 年 5 月 2 7 日（水）午後 2 時 0 0 分～
八幡市役所 5 階 会議室 5—1

第18回八幡市地域公共交通会議（議事要旨）

日時	令和8年5月27日（水）午後2時00分～		
場所	八幡市役所5階 会議室5-1		
参加者	委員・オブザーバー	21名	随行 4名 傍聴者 13名
事務局	5名	報道 1名	

議題① バス路線廃止区間代替交通について（資料1参照）

【主な発言内容】

- 藤作委員：6月から新しいダイヤにして、1か月後、利用される方々がどのように感じているか、アンケート調査をするなりしてもらいたい。
- 事務局：利用実績については、今現在でも把握しており、今後も把握していくとともにヒアリング等は続けていきたいと思っている。

議題② 京阪バス路線の再編について（資料2-1・2-2参照）

【主な発言内容】

- 枚方市：本市の方で4月27日道路運送法上の地域公共交通会議、これを包含するような会議で本市の方では都市交通会議という会議を設置している。この会議の中で5系統を含む4つの系統について代替交通を導入するかどうかについて議論した。5系統については、非常に利用が多いことから代替交通を入れていく、これが本市の都市交通会議の判断である。

今現在、利用実態を把握することを目的にアンケート調査をしており、6月7日を締め切りとし、今現在5系統をご利用の方から非常に多くのご回答をいただいている状況。今後内容を精査し、本市の都市交通会議の議論を深めながら八幡市とも連絡を取りながらどのようにして交通を入れ

ていくか検討していきたい。

藤作委員 : 地理的に考えると、枚方市は八幡市よりも山手の方の面積が広くて、ハンデがあると私は理解しているが、そういうところにお住まいの方に対して公共交通のあり様と言うのは、あったらまた時間を改めてもいいので紹介していただければ。

事務局 : まず、先ほど申し上げた利用者実態アンケート調査実施の前に関係する周辺自治会の役員の方にはご説明させていただいた。その際に路線バスの今の再編のあり様、利用が少ない場合、運転手が不足してどうしても減便、廃止になって来るところの説明はさせてもらっている。なので今後、5系統をどのような形で導入するか、枚方市と連携して話していくが、その説明をするときにも公共交通のあり様についてはお話していきたいと思っている。

藤作委員 : 公共交通の運転士という職業の魅力度を若い人たちに発信するというのはどう考えているのか。

山本委員 : 事業者だけではなく、今は業界全体で国もあげていろんなイベント等運転手の魅力度アップに係る施策等をやってもらっている。

やはり今はどの業界も人手不足なので、その中から選んでもらわないといけない。なのでバスの運転士というのは本当に魅力のある仕事であるというのをできるだけアピールしていきたいと思っている。

藤作委員 : 若い新卒者が、ぜひ京阪バスの方で仕事を求めたいという、非常に前向きな対応が今後出てくることを祈る。

小池委員 : まず総論ですが、地域公共交通というのは、単なる移動手段ではなく、免許返納をした高齢者の皆さんの暮らしを支える福祉としての役割が非常に大きいと思っています。橋本地域のように坂が多いところでは、通院や買い物にも車が必要で、免許を返納したら生活に困るという声をたくさん聞いています。

一方で、運転士不足によってバスの減便が進み、実際に橋本地域でも1時間に2本あったバスが1本になってしまいました。運転士の賃金や勤務時間、自治体の支援なども含めて、どうすれば公共交通を維持できるのか、総合的に考

えていく必要があると思います。

各論では、5系統には代替があるようですが、新田やソフィアモール、欽明台地域などでは、バス停廃止に対する代替措置が見えません。実際に利用している方の声や地域の実態を踏まえて対応を考えていただきたいです。

また、バスだけでなく、タクシー利用補助なども含めて、高齢者が通院や買い物を安心して続けられるような支援策についても、ぜひ検討していただきたいと思います。

山本委員 : ご意見をいただきましたが、おっしゃることはよく分かります。ただ、新田のバス停については、実際には1便に1人乗るかどうかという利用状況であり、その実態を踏まえて廃止の判断をさせていただきました。

また、ソフィアモール周辺についても、多少歩いていただく必要はありますが、山手幹線まで出ていただければ利用できる路線は残ります。全く公共交通がなくなるわけではありません。

現在は運転士不足が非常に深刻で、限られた人員の中で、できるだけ多くのお客様にご利用いただけるよう路線の見直しを進めています。今ある全ての路線を維持することは厳しい状況であり、苦渋の判断であることをご理解いただきたいと思います。私どもも長年運行してきた路線を縮小するのは大変つらく、本来であれば継続したいという思いですが、それが難しい状況まで追い込まれているというのが現状です。

事務局 : まず補足ですが、地元自治会への説明は5系統の関係自治会に対して行ったもので、16系統や74系統の沿線自治会には説明はしていません。

運転士不足で路線の維持が難しい状況であり、欽明台地域については、まず山手幹線沿いの路線を積極的に利用していただき、路線の維持にご協力いただきたいと考えています。

また、八幡市としてはコミュニティバスの再編を進めながら、対応できる地域はカバーしていきます。さらに、丘陵地や農村地域などについては、地元の皆さんと連携してコミュ

ニティ交通の導入を進め、その支援も行っていきたいと考えています。

運転士不足への対応については、国や京都府でも採用支援などを進められていますので、八幡市としても必要に応じて協力していきたいと考えています。

大谷委員： 国の立場から、運転士確保に向けた取組をご紹介します。京都運輸支局では昨年度も、自衛隊の退役予定者を対象に、運転体験会や就職説明会を実施しました。

自衛隊の方は比較的若い年代で退職される方も多く、大型車両の運転経験をお持ちの方も多いため、事業者にも参加いただき、仕事内容や勤務形態を紹介するなど、就職につながるマッチングを行いました。

今後も国として、こうした取組を通じて、1人でも多くの方に運転士として働いていただけるよう支援を続けていきたいと考えています。

藤作委員： 公共交通事業者は大変努力されていますが、今の状況は事業者だけでは解決できない段階に来ていると感じています。

私が住む橋本地域でも、高齢化が進み、バス停まで300メートル歩くことさえ難しい方が増えています。そうした状況を受けて、国の許認可を得て「橋本西山地域移動支援サービス」を実施しており、現在は約110名が会員となっています。

実際によく利用される方は30名程度ですが、今年度は50～60名程度まで利用者を増やすことを目標に、PRや利用促進に取り組み、この事業がモデルケースとなるような成果につなげていきたいと考えています。

小池委員： 先ほどのお話にもあったように、高齢化が進んで公共交通を必要とする方は増えている一方で、運転士は減っており、これは八幡市だけの問題ではありません。

こうした実態を国としてどのように把握し、地域の声をどの

ように反映しながら対策を進めようとしているのか、国土交通省のお考えや取組について、分かる範囲で教えていただきたいです。

大谷委員　：　先ほどご紹介した京都での取組だけでなく、各地域でも運転士確保に向けた取組を進めています。国土交通省が主催するものではありませんが、運転士を目指す方と事業者をつなぐマッチングイベントなどにも、近畿運輸局をはじめ各地方運輸局が参加し、事業者への支援を続けています。

また、ライフスタイルが多様化する中で、女性運転士の確保も重要だと考えています。小型車両であれば女性でも運転しやすいという声もあることから、働き方や車両とのマッチングを進めながら、バス運転士の確保につなげていきたいと考えています。

小池委員　：　今度は八幡市にお伺いしたいのですが、先ほど申し上げたタクシー利用補助について、以前そういった制度があったのかどうか教えていただきたいです。もし制度があったのであれば、なぜなくなったのか、その経過についてもお聞かせいただきたいと思います。

事務局　　：　私の記憶では、八幡市が過去にタクシー利用補助を実施していたことはありません(※)。この件については議会でもたびたび議論になっていますが、利用者の偏りや財政負担などの課題があり、実施は難しいという答弁をこれまで行ってきました。(※)後日、補助実績がないことを確認。

野村委員　：　運転士不足による減便や廃止は、民間事業者が運営している以上、利用者が少なければやむを得ない面もあると思います。近隣では大山崎町で民間バスが撤退する事例もあり、今後は八幡市でも起こり得ることだと感じています。

その上で大事なのは、データに基づいて代替手段を考えていくことです。八幡市は利用者アンケートやヒアリングを丁寧に行っており、そのデータを活用して今後の交通施策を検討していくことが重要だと思います。

また、地域にある資源を活用する視点も必要です。大山崎町では福祉施設の送迎車を町営バスとして活用する取組も行

われています。八幡市でも地域資源を確認しながら、今回のような事例をきっかけに代替交通の検討を進めていただければと思います。

さらに、タクシーについてはタクシーアプリの利用促進など、新しい移動手段の活用も考えられます。路線の廃止というネガティブな面だけでなく、代替手段や新たな取組について前向きに議論していくことが大切だと思います。

藤作委員　：　これは私見ですが、地域の平均年齢が上がり、300メートル先のバス停まで歩くことも難しいという声が実際に増えています。橋本・西山地域のアンケートでも、こうした交通弱者の実態が明らかになっており、今後はその方々を支える移動手段を真剣に考えていく必要があると思います。

こうした課題は、バス事業者だけでは解決できるものではありません。バス事業者やタクシー事業者、その他の交通事業者、市がそれぞれの役割を分担し、地域の実情を踏まえながら連携して方向性を考えていくことが大切だと思います。

私たちの移動支援サービスも、その先駆けとなる取組として活動していますので、今後も前向きな検討をお願いしたいと思います。

議題③ 八幡市地域公共交通網再編について（資料３・４参照）

【主な発言内容】

小池委員　：　今、お話にあった10月1日に再編を実施する予定が延期になるという背景についてもう少し詳しく教えてほしい。

事務局　　：　先ほども申し上げたとおり、現在検討しているコミュニティバスの再編ルートは、京阪バスのバス停と共用している箇所が多くあります。そのため、ダイヤ調整が必要になることに加え、路線再編によって停留所がなくなる地域や減便となる地域への対応についても、あわせて検討を進めています。

そうしたことから、もう少し時間をいただきながら、全体を整理した上で進めていきたいと考えています。

議題④ その他（資料5 参照）

→ 特に発言なし

◇講評（野村委員）

本日はありがとうございました。全国的に運転士不足が続く中、限られた人員で重要な路線を維持していくためには、交通事業者の取組をお互いに理解しながら進めていくことが大切だと思います。

また、地域にどのような輸送資源があるのかを皆さんで考え、他地域の事例も参考にしながら、地域に合った公共交通を検討していくことが必要だと感じています。

モビリティハブについても、イズミヤや摂南大学の取組など、前向きに進んでいる印象を受けています。バスやタクシー、コミュニティバスなど様々な交通手段が集まり、人が集う拠点となるような場所づくりが進めば、八幡市の新しい公共交通につながるのではないかと思います。

石清水八幡宮駅前のまちづくりとも連携しながら、市民や事業者が主体となる新たな取組が広がり、交通と地域の活性化が好循環で進んでいくことを期待しています。課題は多くありますが、引き続きこの会議で議論を深めていければと思います。

◇まとめ（井上会長）

今日はさまざまなご議論をありがとうございました。

バスの運転士が増えない背景には、この5年間で京都府の人口が大きく減少し、担い手そのものが減っていることがあります。一方で、AIの発達により新しい仕事も生まれ、仕事の選択肢が広がりバス運転士の確保は今後さらに厳しくなると考えています。

そうした中では、バスだけにこだわるのではなく、「移動を支える仕事」という視点で新しい仕組みを考えていくことが大切だと思います。バスやタクシーなど、さまざまな移動手段を組み合わせながら地域の移動を支えていくことを、今後検討していく必要があります。

本数が減って不便になることは理解していますが、どこかで折り合いをつけながらサービスを維持していかなければ、さらに厳しい状況になります。公共交通の問題を利用者だけの問題ではなく、地域全体の課題として捉え、一人ひとりが自分事として考えることが、これからの公共交通をより良くしていくことにつながると思います。

地域の皆さんと一緒にできることを考えながら、引き続きこの会議でもご意見をいただき、より良い公共交通づくりにつなげていければと思います。ありがとうございました。